

みんなで創り、みんなで楽しむ「1人2役」を実現

(コミュニティクラブ東亜 山口県下関市)

1. 大学を拠点としたクラブ運営

平成 16 年より、東亜大学のY教授を中心に、大学を拠点とした教職員・学生・住民の三位一体の運営による総合型地域スポーツクラブづくりが始まりました。その背景には、地域社会に開かれ地域社会と共に発展していこうとする大学の意志があるにもかかわらず十分な成果をあげていないこと、また、下関市という風光明媚で温暖な気候の土地柄、豊かな食文化があるのに、人と人の交流が希薄という印象があったことがあげられます。設立準備委員会を発足させ、大学、地域の理解、認知、支援度を高めていき平成 17 年 4 月「コミュニティクラブ東亜」(以下、CCT)が設立されました。

CCTは、大学を拠点として、表 1 のように様々なスポーツ、文化・芸術などのサークルやプログラムがあり体験もできます。会員同士のふれあいを大切にした楽しいクラブライフの実現と健康で元氣あふれる住みよい町づくりを目指しています。

表 1 CCTのプログラム一覧

文 化		ス ポー ツ	
ドイツ語	パソコン (E X)	テニス教室	テニス開放
中国語初級	パソコン (W)	Jr テニス教室	テニスサークル
中国語中級	パソコン中級	いきいき	太極拳
韓国語初級	パソコン初級	ちびっこレスリング	ちびっこサッカー
韓国語中級	哲学ってなに？	バドミントン同好会	社交ダンス同好会
英語会話	合唱 (コーロ東亜)	ゴルフ同好会	スナッグゴルフ
イタリア語	囲碁クラブ	卓球サークル	卓球開放 (月)
クラシック	和布刈を謡う	卓球開放 (水) 9 時	卓球開放 (水) 13 時
近世古文書	ジョイフル英語	卓球開放 (金) 18 時	卓球開放 (土) 9 時
生け花教室	フランス語	卓球開放 (土) 13 時	
手作りクラブ	料理教室		



「いきいき」



CCTまつり韓国語

2. CCTの多数参加型の運営体制とは

CCTの平成24年度の運営組織には、約100名の会員の方々が参画しています。5つの事業部会（「指導者部会」〈5名〉、「文化・芸術部会」〈15名〉、「スポーツ部会」〈13名〉、「広報部会」〈9名〉、「ふれあい部会」〈11名〉）が置かれ、各部会は各プログラム受講者の意見が反映できるメンバー構成になっています。また、各部会から5名以内の運営委員が選出され、会長、副会長、事務局、監事を加えた25名で運営委員会を構成し、毎月会議を開催して運営面の問題点や課題を審議する仕組みになっています。

月曜日から土曜日（火曜日休み）の13時～15時まで、事務局には数人の当番の方がいて、交代の人も含めて5、6名で担当しています。事務局の当番とは、集められた会費の管理や会計処理、お金の出し入れ、各種整理など、クラブの事務的な業務を担っています。その他、各プログラムの指導者やお世話人がいます。お世話人は出席をとったり会費を集めたりする人です。

現場では「今年は私、来年はあなた、みんなで支えるCCT」という会員の共通理解ができていて、役割の円滑な交代がなされています。

それは、部会メンバーも事務局の当番もお世話人も2年交代になっており、任期が1年ずつずれているからです。複数の担当者のうち毎年1人や2人が入れ替わっていくので、仕事がスムーズに引き継がれていくのです。



3. 「会員の力」を引き出すには

CCTの会員は、「みんなで創る、みんなで支える」を合言葉にお客さん意識をなくし、自分たちが何をしたいのか、何を学びたいのかを主体的に考え、プログラムをつくり参加していくという「共通の目標」を理解し、みんなで運営しています。

なぜ、このように会員に理念が浸透し「会員の力」を引き出すことができているのでしょうか。まず入会時にクラブについての共通理解をもってもらうために、「みんなで支える」話をしています。右にある「共通の目標」は、活動している各場所に掲示し、毎月出している「かわら版（会報紙）」にも必ず掲載しています。

【CCTの共通の目標】

当クラブは『みんなで創るクラブ』で、会員はどなたでも運営に参加できます。

『もっと楽しく』『もっといきいきと元気』なクラブにするために、**お手伝いしてみよう**という方、“大歓迎”です。

CCTの会員のうち、入会前に、スポーツを特に何もやっていなかった人が40%を占めています。入会するとその人々が週2～3回はスポーツをするようになっていきます。CCT参加による生活面の変化は、「友達ができた」「身体が良くなった」「思い切って皆の中に入っていく勇気ができた」などがあげられています。こうして参加することが楽しいと感じ、運営委員や部会のメンバー、事務局、お世話人などの役割を担ってCCTを支えたいと考える人は、会員の約半分を占めているそうです。

多くの人が他のクラブの話を聞いて、「大学の施設を使えたり、大学がかかわったりしている自分たちのクラブは恵まれている」ということを強く感じて、会員同士の会話にも出てくるそうです。その気持ちが「みんなで創る、みんなで支える」という行動にもつながっていると思われます。

4. 課題や今後の展開

CCTの活動時間は、日頃平日 17 時までで、大学の夏季休暇中（8 月）は活動を休止しています。そのため、高齢者が多く、ジュニアを中心とした若者が少ないという会員層の薄さがクラブの問題点の 1 つであると言えます。活動時間の設定の見直しや土日の利用、夜の活動を増やすことが求められますが、そのためには、施設の利用に関する要望を大学に提出することも必要となるでしょう。

また、土日に指導可能な指導者の発掘が急務であると言えます。「地域におけるスポーツ振興組織との連携・協力を模索していくと共に、『新しい公共』を担うために本格的に核となる、地域に根差したクラブを構築していくことが不可避な課題」とCCTの方は話されました。

（井上登代子 山口県クラブ育成アドバイザー）



会員による草刈り(大学構内)

【コミュニティクラブ東亜（CCT） プロフィール】

1. 設 立 年月日：平成 17 年 4 月 16 日
 経緯： 東亜大学の学生、教職員、地域住民が協働して設立
2. 地 域 人口：下関市勝山地区約 25,000 人（平成 24 年 7 月現在）
 特性：下関市の商業地域、住宅地域として新下関駅を中心に発展している人口増加地域である。
3. 運 営 会員数：456 人（平成 24 年 6 月現在）
 予算：約 600 万円（平成 24 年度）
4. 特 徴 地域、大学の教職員と学生が三位一体となって、みんなで創り、支え合い「1 人 2 役」を実践しているクラブ。
5. 連絡先 〒751-0835 山口県下関市一の宮学園町 2-1 東亜大学内 体育館 401 教室
 TEL/FAX： 0 8 3 - 2 5 0 - 5 0 3 2
 Email： cct2008@water.ocn.ne.jp
 URL： <http://www5.ocn.ne.jp/~cctoua/>

関連リンク：井上登代子氏プロフィール

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/494/Default.aspx>